1953年6月16日　第三種郵便物認可

2024年10月7日（月）3171号　隔週月曜日発行

民主青年新聞

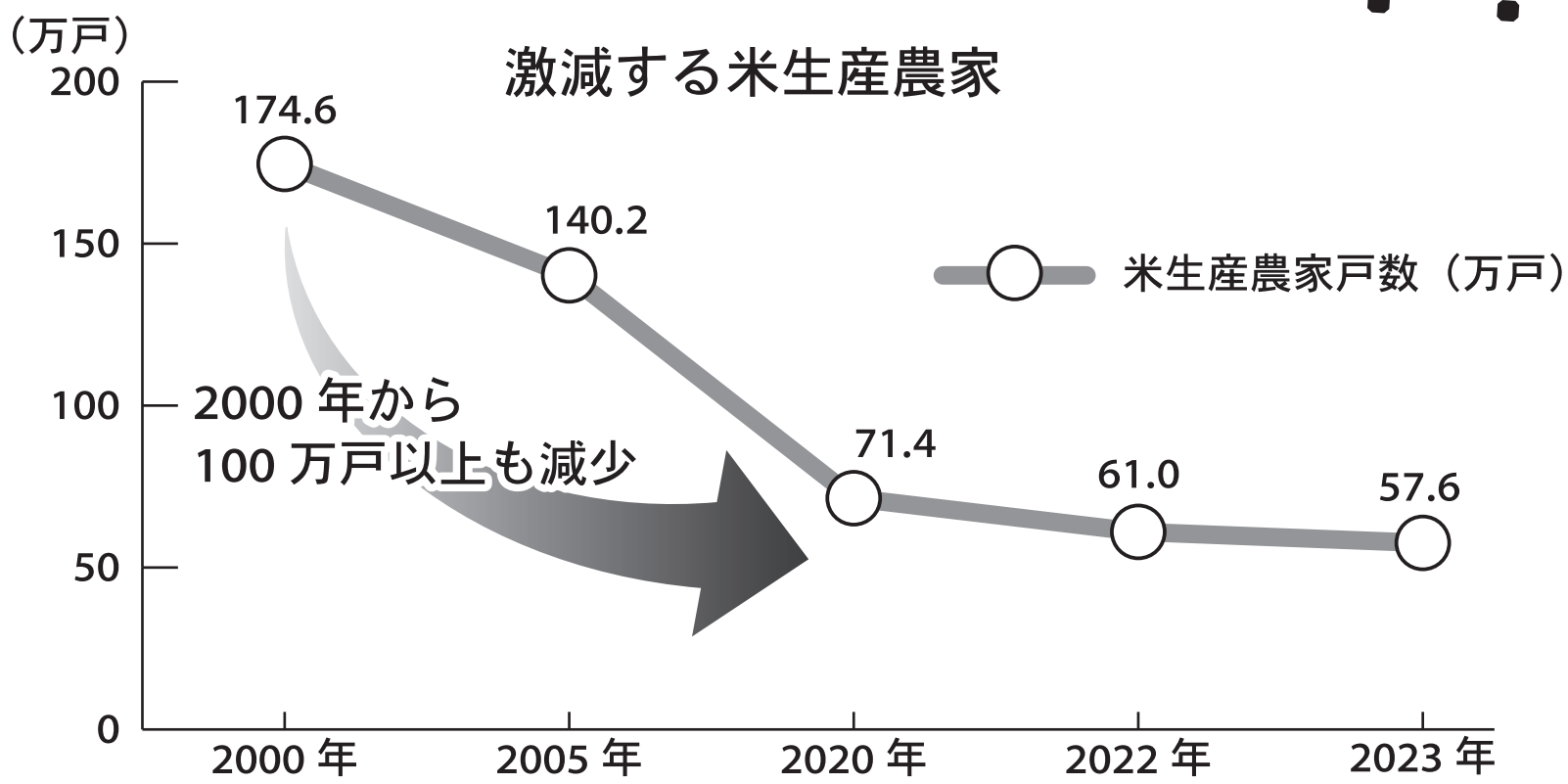
DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ
第48回全国大会決議案　4～8面
民主文学会で作品を書いてみませんか　3面
自衛隊と靖国神社の接近　10、11面

▶ホームページ www.dylj.or.jp　▶Eメール minsin@dylj.or.jp

どうしてコメがない！？

政府は主食に責任を持て



※2000年～2020年は農業センサス　22年～農業構造動態調査を参考に作成

スーパーに行ったらお米がない―。「令和の米騒動」とも呼ばれる今回のコメ不足。街頭の青年への取材とともに、なぜコメ不足が起きているのか、政治はどのように責任を果たすことが求められるのかを考えます。（栗山さつき記者）

異常事態だと実感

9月21日、東京・千川駅前で青年に取材しました。

「おコメを週に1～2日食べている」と話す青年（会社員、29）は、スーパーでコメがなかなか手に入らないことに触れながら、「パックが普段の値段から1～2割ほど値上がりしているので、今は割安感のあるパスタを主食にして、カレーライスが食べたくなるときだけパックご飯を食べている」と話します。

9月になってもなかなかコメが店頭に並ばないことについて、青年は「備蓄米があるのになぜ出し渋っているのか、放っておくのはあまりにも無責任だと思う」と憤りをあらわにしました。

「スーパーでガラ空きになった棚を見ていると『異常事態』だと実感する」と話す青年（会社員、32）は「コメは外食を含めて週に5～6回食べている」と話します。

今回のコメ不足について青年は「コメは主食であるし、こんな事態になる前になぜ政府は何も対策を取ってこなかったのか」と話しました。

ミニマムアクセス米（※）について尋ねると「わざわざ外国のコメを輸入するくらいなら、日本の農家を守るべきだし、守ってこなかったことが今のコメ不足の状態につながっているのだと思う」と答えました。政府に対して求めることについて尋ねると「どうすれば農家の人たちが安心して働けるか、今回のようなことを起こさないために何が必要なのかを考えることが必要だし、それが本来の政治の仕事」ときっぱりと答えました。

「まさかコメまでなくなるなんて考えていなかった」と話す青年（会社員、26）は「以前は週に2～3日コメを食べていたけど、今は全然手にはいらないので、どうしても食べたい時は割高のパックごはんを食べている」と答えます。

20年あまりでコメ農家が100万件も離農したことについてどう思うか尋ねたところ「ただでさえコメを作る人が少ないのに、対策をしないとそのうちお米が食べられなくなる時代が来ると思っている」と話します。

政治にしてほしいことについて尋ねると「備蓄米の放出と、コメ農家への補償や手当の充実。働き手が少ないのであれば、働きたいと思えるような政策を取るべきだし、一番必要なのはその仕事だけで生活できる保障がされるということだと思う」と話しました。

（※）ミニマムアクセス米とは、WTO協定により定められた「輸入量が国内消費量の5％未満の商品（米）については5％以上の輸入機会を提供する」というもの。ただし、需要がなければ無理に輸入をしなくてもよいという趣旨で、義務ではない。日本政府はこれの勝手な解釈による「輸入義務」論に固執している。

コメ不足が起きた背景には何があるのでしょうか。日本共産党農林・漁民局次長の橋本正一さんに話を聞きました。

なぜコメ不足は起きているのか

コメ不足の要因

8月から店頭のコメがなくなるようになってきましたが、日本共産党は春からコメ不足について国会で取り上げていました。紙智子議員が今年の6月に参議院の農林水産委員会で「早急な対策を打つべきだ」と政府に対してうったえていましたが、結局、なんの対策も取らずにここまできてしまいました。

コメ不足が起きた背景には、さまざまな要因があります。当初、政府の見込みでは6月末には190数万トンほどの民間在庫があるとされていました。しかし、昨年は猛暑のため、コメの品質が落ち、精米の過程で量が減ったためコメの供給量が減少してしまいました。

また、インバウンドによる需要がコメの消費量を押し上げたと言われています。円安により、海外から輸入していた小麦が値上がりしたことで相対的に見て、コメの価格が安くなり、消費者に割安感を与えたことで、普段よりもコメの消費量が増えました。

そして、8月8日に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されたことを踏まえ、備蓄を行う家庭が増えたことで、売り場からコメがなくなり、一気に品薄感が出るようになりました。これらの要因が合わさったことにより、当初のコメの需要が生産量を上回ったことが、今回のコメ不足を引き起こしました。

一年に一度しか収穫できないコメは、気象条件や経済変動で需要と供給のバランスが大きく変動するのは避けられません。わずかな需給変動で、コメが店頭から消える事態は、政府の失政といわなければなりません。

無責任な政府の対応

コメ不足が本格化してきた中でも、政府は備蓄米の放出をかたくなに拒（こば）み、コメの価格も流通も市場任せで、一切対策を講じようとしませんでした。そのため、コメを買いたくても買えない人が続出し、食料支援に必要なコメも十分確保できないなど、私たちの生活にも影響が出てきています。日本共産党は、コメと農業の持つ特質から「市場任せをやめて、国が需給の安定に責任を持つべきだ」とうったえています。

過剰時には国が備蓄米として余ったコメを買い増しし、不足時にコメを放出することで主食であるコメの供給確保と安定を図ることが必要です。消費量の減少にぎりぎりに合わせて生産を削減させるのではなく、ゆとりある生産と備蓄の確保こそが政治の責任です。

（2面につづく）

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701 FAX(03)-5772-5702
日本民主青年同盟中央機関紙
定価　月680円 〒130円 1部340円
郵便振替00180-4-106690